



# 千葉動力車

## 支部 幕張 希部

# 国労と共に 67名がストに起っ!



幕張支部は、国労幕張分会の仲間たちとともに、構内・仕業の融合化阻止—検査合理化粉碎、九七春闘勝利、組織破壊攻撃粉碎に向けて、全組合員がストライキに起ちあがった。  
スト当日は、七時五〇分の一宮派出所を先頭に、本区・派出所で続々とストに突入、九時三〇分には、全組合員が千葉市民会館に結集し、支部独自のスト突入集会が意気高く開催された。  
集会の冒頭あいさつにたった石幡支部長は、「本日幕張支部は、検査合理化粉碎—構内外注化阻止、九七春闘勝利に向けて、六七名がストに突入した。分割・民営化以降十年のなかで初めて、国労分会と支部が同じ戦術で歩調を合わせてストに起ち上がったことは大きな意味がある。われわれは、今日の闘いをもって、JR体制打倒に向けてますます頑張っていきたい。JR体制を打倒し、差別・選別を許さない闘いこそが求められていることであり、私たちの未来がかかっている」と訴えた。

### スト破りに怒り

とくに、結集した組合員からは、当局と鉄産労や学士（JR東労）の結託したスト破りに対する怒りの声が口々にあがった。「作業検査など全くやったこともない者が一日訓練を受けただけでスト破りに配置されている。こんなやり方は絶対に許せない！」成田や一宮の派出所にも、何の仕事もわからずに、鉄産労やJR総連の学士がスト破りで送り込まれている。こんなことは安全上からいってもできないはずだ。「そもそも動労千葉や国労潰しのために送り込まれ、唯々諸々とスト破りまでやるような奴らは許せねえ。これから対応を変えるしかない」「今日は、ストから復帰した後も含め、一切の時間外労働は拒否すると通知してあるのに、当局は『一七時に職場復帰したら、徹夜しても明日の日報は作ってもらう』などという言い方をしてきた。許せない……」集会場やロビーでの会話は、ほとんどがスト破りに対する怒りの声だ。午後からは、動労千葉全体のスト総決起集会に合流、幕張支部は、一七時までのストライキを意気軒昂と貫徹した。

▲ 全体のスト総決起集会で報告にたつ石幡幕張支部長

## JR体制打倒へ 怒り充滿

国労の仲間たちも、東日本全体で三・一四〇がストライキに突入、また動労総連も水戸・高崎・西日本の仲間たちがストに起ちあがった。とくに、JR本社前は積もり積もった怒りが合流し、四千五百名の国労組合員と赤旗の波で埋め尽くされた。これまでにない数だ。

三・一九ストは、十年の節目にふさわしい、画期的な闘いとなった。このストライキのなかで、JR総連・革マルに対する怒りの声が全国に充満し、JR総連打倒に向けた本格的な総決起が始まろうとしている。本社前では、国労本部の役員も口々に、JR総連解体に向けた闘いへの決起を呼びかけた。  
「国労組合員の首を切ってほしい、おのれらだけがJRに採用されればいい、このような人間にもとる主張を展開して国労解体に拍車をかけた連中だからもはや語る資格はない。このような組合ならざる組合が会社と癒着して悪さの限りを尽くしている。このストを契機として、労働者は、労働組合はどうあるべきかを大胆に呼びかけよう」(榎村国労本部書記長)



▲ JR東本社にこぼしをつぎ上げる 国労東京、4500人

「原点にたつて本格的な組織拡大を追求しよう。東労組を恐れる必要はない。東労組は資本の論理に取り込まれた組合だ。会社がバックにいるから強い姿勢をとっているだけだ。大胆に国労加入を呼びかけよう」(篠崎新橋支部書記長)  
JR体制打倒に向けた気運が全国の職場に満ちてきた。JR総連・革マルは組織崩壊の危機に怯えている。  
三・一九ストを転換点として、動労千葉が、労働運動の再生と発展のために、二〇年間にわたって貫いてきた動労・革マル—JR総連・革マル打倒の訴えと闘いが、今すべての国鉄労働者の声となり、闘いとなるうとしている。JR総連を解体し、十年間の攻防戦に決着をつけよう。  
一方JR東労組は、「国労のストは、箱根以西の経営者やJR連合にそのかさされ、JR東労組破壊の延長線上で設定されたもの」などと、危機感も隠さず全面敵対した。彼らの方針は今や「国労破壊」と「松田を守れ」以外何ひとつない。今こそ、JR総連を解体しよう。